

6月22日(日)

梅雨から初夏の  
美味しい魚を  
選びました



1パック(8カン)

1,400円(税込)

初夏

皆様如何お過ごしでしょうか？久々にコメント書かせて頂きます！

6月には珍しく30℃を超える暑さが続き、梅雨ハテ？夏バテ？になってませんか？自分は早くもそんな感じです。笑

今回の広告「寿司盛りー初夏ー」は、梅雨から初夏に向けて何か美味しい魚を、と思い仕入れました。少しご紹介致します。

1. 剣先いか：甘味が強く柔らかいのが特徴で、6月から量が増え魚釣りに行かれる方も多い。
2. 梅雨いさぎ：梅雨時期に脂がのり、皮を炙る事でいさぎ本来の美味しさを引き立てます。
3. 本鰯：魚界の王様。この時期は境港で水揚げされ魚体も100%超える脂のノリも良い。
4. 鯔：初夏に向け脂がのり始める、島根県のどんちっちあじが有名で、入荷すればそのあじで握ります。
5. 国産鰻：言わずと知れた夏ハテ予防に是非の一貫。
6. 鰯湯引き：こちらも初夏が旬な魚、梅肉と食べると更に清涼感が。
7. 小鯛：6月半ばより広島県産小鯛解禁、瀬戸内の小鯛を是非食べて見てください。今年の鯛は最高です。
8. 石鯛：今年は何年ない水揚げがあり、6月に珍しく毎日のように仕入れとります。熟成すると美味しい魚です。それぞれの良さを、簡単ではありますがご紹介しました。これを丁寧に一貫、貫握らせて頂きます。入荷状況にもよりますが、出来る限り揃えられるように頑張ります。是非ご来店お待ちしております。

西田鮮魚店 店長 祐宗 優司

 西田鮮魚店 872-5246

御用聞き便専用番号 ☎090-7125-5489 (旧庄原市内はご自宅に配達)  
※御用聞き便は火曜日・木曜日・日曜日のみの配達

# 『えいやりー!』

鮮コーポレーション(株) 代表取締役会長 西田 昌史



早いものだ。市長選、市議選から、もう2カ月がたつ。

## I 永宗交差点

どんな選挙にも関わらなかった。でもそうもいかなかった。72才で初めて選挙運動なるものをした。

3月21日、朝7時半。

永宗交差点のセブンイレブンの道路を挟んだ空き地に立った。お揃いのブルーのジャンパーを着て。

まさかじぶんが……。

## II 始まり

市会議員に立候補すると彼が言った。

「ええんじやないか。やってみいや」そこから始まった。

別に私が反対しようと思え変えることもなかったろうが、

とにかく賛成した以上、知らぬ顔はできない。だから……。

後援会の立ち上げから始めた。「後援会長どうする?」

幾人かの人に打診した。誰にも引き受けてもらえない。

無理もない。公的な立場がある人ばかりだ。

「お父さん、どうですか?」「わし?身内じゃいけんじゃろ」

「その代わり広報部長をやらせてくれ。」広報部長を拜命した。

## III リーフレット

後援会のリーフレットづくりを始めた。

彼の思いを聞く。文章に起こす。書き直す。何度も。

どんな形にすれば、思いが伝わるじゃろうか。

彼でなければ……。彼だからこそ……。それを伝えたい。

何度か彼の妻も一緒した。私の娘だ。

彼には夢が、娘には生活がかかっている。真剣だ。

「彼らしいキャッチフレーズはないか?」私が問う。

「庄原をレスキューは?」娘が言った。

彼は、12月まで消防士であり救急救命士だった。

「ちょっと、くだけすぎかね?」

「いや、いい。それがいい。それでいこう」

でも、もう少し具体的な言葉がほしい。できた。

『38才消防士だった自分のできること』

『こりゃあ、ええ』広報部長が自画自賛。

彼の立候補の動機が真っ直ぐに伝わる。今もそう思う。

## IV 後援会

「後援会長が決まりました。」ある日、彼が来て言った。

「おお、よかった。どんな人」

「僕がPTAの副会長だった時に会長だった女性です」

「女性?」「ダメですか?」「馬鹿言うな、最高じゃ。」

「何才?」「40代です。若すぎますか?」「馬鹿言うな、最高じゃ」

こうして彼を支える後援会の幹部が決まっていた。

PTA仲間。こどものスポーツクラブの父兄。幼なじみ……。

30代、40代で固まった。72才の広報部長だけがちよつと。

## V 事務所開き

3月2日。事務所開き。悪いことに雨。庭先にテントを張る。

事務所は自宅だ。昔の農家。縁側が高い。

畳の広間に座布団が敷かれ、仏壇の横にはお雛様が……。

事務所開きというより、法事で親戚が集まるといふ風情。

違うのは礼服でないことくらいか。

地元の人を中心に、ぎつしりの人。まじ、ありがたかった。

来賓の三次市議の男性と親戚代表の挨拶に続き彼が話す。

えっ、熱い!驚いた。こんなに熱い男じゃったんか

消防士を辞めてまで選んだ政治家の道。覚悟が伝わった。

聞いていた誰もが応援してやろうと思った。

## VI 苦戦

動き始めた。苦戦が伝えられた。

選挙をいくつも経験した友人たちが尻を叩く。

「まさし、何ばやばや、しょうるん。もつと動かじゃあ」



言われても出る幕はない。若い人たちが動いている。しかし、誰も選挙などやったことがない。見よう見まね。見て覚える。言われて動く。やってみて変える。手探りだ。まわりから見れば、まどろっこしかったことだろう。

## VII 朝の辻立ち

彼と後援会の仲間が、朝の辻立ちを始めたと言った。聞いてもできないが、交差点で手を振りお辞儀するくらいでいい。

立った。「えっ、西田が?あの西田が?」

馬鹿にしてはいけない。やるときはやる男だ。

若い仲間と手を振った。自然に頭も下がる。腰もかがむ。

「おはようございます」「行ってらっしゃい」声も出る。

車の少ない週末は休み。確か15日くらい立った。

顔なじみというか、車なじみというか。

ああ、あの車だ、あの車だとわかる。知り合いに思えてくる。

だんだんと、振る手も大きくなる、お辞儀も深くなる。

手を振ってくれる人、会釈してくれる人が増えたような……。

何度か、彼のお母さんと一緒に立った。すごかった。

満面の笑み。左足を前に出し、右足を引く。

そのうえで、体を前に倒し、思い切り腕を振る。

車の中の人に伝わらないわけがない。母の愛は偉大だ。

## VIII うぐいす嬢

公示日が近づく。選挙カーに看板をのせる。いよいよだ。

うぐいす嬢をどうする?選挙カーの花はうぐいす嬢だ。

何人か手を上げてもらえた。もちろん初めての人も。

一度だけ経験者の女性から手ほどきを受けた。

三次市議の女性や彼女が師匠と呼ぶ伝説のうぐいす嬢だ。

ぶっつけ本番。

朝は恐るおそる、しかし午後には見違えるほど滑らかだ。

紙を読んでいては伝わらないと、日ごとにアドリブが増える。

## IX 演説

4月6日。選挙戦が火ぶたを切った。

朝8時、永宗交差点から彼の演説が始まり遊説に出る。

夕方5時、ジョイフルで演説する。私も幟を持ち立った。

日を追うごとに声に張りが出る。言葉に力が宿る。聞き入る。

最終日。支持者の前で演説。涙ながらに言葉を振り絞った。

「今だけは、弱い自分でいさせてください。明日からは……」

地元を何度も何度もまわり8時が来た。

庭先に車を止める。選挙カーのライトが闇を照らす

「応援ありがとうございます」最後の一声に声が詰まる。

「8時になりました。選挙活動を終わらせていただきます」

伝説のうぐいす嬢の声が響いた。拍手が起こった。

## X 当選

4月13日。日曜の夜10時。支持者が三々五々集まる。

3回目の開票速報で900票。当選が確定する。

彼が「良かった」と息を吐く。部屋の空気が緩んだ。

何分かして、スマホを見ていた彼がつぶやいた。

「トップじゃ」誰もが彼を見た。「うそ〜っ」「ほんまじゃ」

全員立ちあがった。歓喜の声があがった。

彼が泣いた。娘が泣いた。みんな泣いた。

## XI 志

6月。

新市長、新副市長、新市議会。動きは軽やかだ。

選挙はほんとにたいへんだ。よく、わかった。

でも、このエネルギーが庄原を動かすと確信した。

その中核が市役所であることもまちがいない。

「えい、やつ!」で立候補した彼をほめてやりたい。

4年後、そんな若者が増えますように……。

